

新たな年を迎えるにあたり

1月のことを睦月と呼びます。

いろいろな説や由来がありますが、「睦び月」が「睦月」に転じたという説があります。「睦び月」とは、仲良くすること、睦まじいこと、互いに親しみ合うこと、といった意味を持つ「睦び合い」の宴(うたげ)を、家族や親せきが集まるお正月のある月に行うことが由来とされています。また、睦み合う(互いに親しみ合う)始めとなる月、元になる月と、いうことから、「もとのつき」になり、それが「むつき」に転じた、という説もあるようです。そのほかにも「祝月」(いわいつき)、「初春月」(はつはるつき)という呼び方もあります。これから始まる1年が、良い1年となるように、という希望や期待が込められているのだと思います。

さて、新型コロナウイルス感染症は学校教育や子どもたちの生活を一変させました。

令和の時代になってスタートしたGIGAスクール構想により、一人一台の端末タブレットを活用した授業が加速し、離れた場所にいる人や他の学校とも交流することが可能になるなど、いろいろな人と学ぶチャンスが増えたともいえます。

対面による直接的な触れ合いがなくても、今までとは違った形でお互いの意見や心の交流が可能になったと感じる半面、画面越しで相手の反応を感じ取っていくという難しさも実感したことと思います。

対面でも画面越しでも、自分の言動がどう相手に伝わり、受け取られているか、そして相手はどう考えているかを想像しながらコミュニケーションをとっていく大切さを改めて確認することができたと思います。

それを踏まえて、子どもたちには「言葉の持つ意味」、「言葉に込められている想い」を感じ取ることができる想像力をつけてほしいと思います。

そのためには、まず自分の気持ち(感情)をコントロールする力をつけることが大切です。思い通りにならないことがあってイライラしたり、失敗して落ち込んだりすることがあっても、人に当たったり、人のせいにせず、上手に気持ちを切り替え、落ち着けるような自分に合った方法を見つけることです。もう一つは、周りの人の気持ちを考える想像力をつけることです。「何をしてほしいのか」「何をしてほしくないのか」を想像することで、良好な関係を保つことが可能になってきます。

「言葉」と「気持ち」は同じなのだろうか、という想像力です。

変化の激しい時代を生きる子どもたちのために、さらに学びを切り拓いていくことを学校教育で追及していきます。失敗を恐れず、果敢にチャレンジしていくことを児童生徒も教職員も大切にしていければと思います。

新たな年を迎え、新たな目標と希望を持ってスタートしたことでしょう。子どもたちが生き生きと毎日を過ごせるように、全力で支援していくように努めてまいります。

流山市教育長 田中 弘美